

生活科部会

I. 研究の概要

1. 研究主題

児童の思いや願いを実現させる生活科の実践
～生活科における探究的な学びを目指して～

2. 研究目的

学習指導要領では、生活科は「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力」の育成を目標としている。その達成に向けて、一人一人の思いや願いが実現する活動や体験を重視した学習活動を展開することで、児童が生活科の学びを実生活に生かし、よりよい生活を創造していくことが求められている。これまでの研究で明らかになったこととして、繰り返し対象と向き合うことで気付きの質の高まりが見られたことが挙げられる。また、適切な支援を行えば児童の意欲関心が高まり、対象への愛着も深まり、より対象への思いや願いが醸成されていった。

令和5年度と6年度の石教研生活科部会の研究では、個別最適な学びと協働的な学びにおけるICTの活用を研究の中心として行ってきた。その中で、低学年における効果的なICT活用の道筋をつけることについて一定の成果を得ることができた。一方で生活科本来の「体験を通して学ぶ」という視点と「ICT活用から学びを深める」という視点のバランスをどのようにとるのかという課題も浮き彫りになった。そこで、今年度の研究では、生活科本来の「児童の思いや願いを実現させる生活科の実践」を研究の主題とし、これまでの研究の成果をもとにしながら探究的な学びのあり方を研究していく。

3. 研究仮説

○研究の仮説

学習過程の工夫などを通して児童の思いや願いを引き出し、その実現のために探究的に活動することで、子どもの主体的な態度が育まれるのではないかと。また、体験的な活動を通して得た気付きをICTなどの適切な方法で表現することで自らの活動や対象を見つめ直すことができ、そこから新たな思いや願いが生まれ、自らの生活をより良くしようとする態度が育まれるのではないかと。

4. 研究内容

【研究内容1】

●児童の思いや願いを実現する授業づくり

生活科における探究的な学びの実践。

【研究内容2】

●体験活動の気付きを表現する場の工夫

体験活動と表現活動（ICT活用）の一体的な実践。

《研究の経過》

<平成22年度～平成25年度>

『子ども一人一人の気付きの質を高め、生きる力をつける生活科の創造』
～子どもの思いや地域を生かした体験活動を通して～

<平成26年度～平成29年度>

『子ども一人一人の気付きの質を高め、自立への基礎を養う生活科の創造』
～単元構成や支援、評価のあり方を通して～

<平成30年度～令和2年度>

『子ども一人一人が見方・考え方を生かし対象への愛着を育む生活科を目指して』
～単元構成・学習過程の工夫と教師の支援を通して～

<令和3年度～令和4年度>

『生活科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』
～ICTの効果的な活用～

<令和5年度～令和6年度>

『生活科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』
～ICTの効果的な活用～

<令和7年度～>

児童の思いや願いを実現させる生活科の実践
～生活科における探究的な学びを目指して～

前年度の研究では、生活科における児童の思いや願いを大事にした授業作り（探究的な学び）の実現を目指して研究を進めてきた。特に、児童が主体的に「〇〇したい。」「〇〇を作ってみたい。」という思いや願いを持てるような学習過程の工夫を重点にしてきた。もう一つの研究の柱として、体験活動だけで終わることなく、活動を通して得た気づきを ICT などの機器を活用して記録したり、まとめたり、表現したりする場面どのような形で設定すると良いのかについても実践をとおして検証してきた。今年度も、2つの研究仮説についてより深く検証を行い、児童の資質・能力の育成に効果的な学習の在り方を追求していきたい。

【研究内容 1】

●児童の思いや願いを実現する授業づくり

～生活科における探究的な学びの実践～

各単元での「対象との出会い」の工夫や「くり返し対象と関わる時間」などを通して、子どもの「もっと知りたい。」「やってみたい。」といった思いや願いを引き出す方法やそれらを実現するための学習過程の工夫を行っていく。

【研究内容 2】

●体験活動の気づきを表現する場の工夫

～体験活動と表現活動（ICT 活用）の一体的な実践～

子ども達が自らの五感を使った体験活動を通して気付いたことやわかったことについて、より深められるように ICT を活用しながらまとめたり表現したりする場面を計画的に設定する。

資料 生活科における探究的な学びとは（総合的な学習の時間との比較から）

田村 学（文部科学省初等中等教育局主任視学官）は生活科における探究的な学びについて以下のように述べている。

「生活科は簡単に言えば、子供たちの思いや願いを実現するということが、総合学習は問題解決が連続的に発展するということが、少し質が異なるのです。総合学習では「探究」の4つのプロセス（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を踏んでいくことが、より質の高い「探究」に向かうというイメージがもてると思います。

それに対し生活科では、そのような細かなプロセスを踏むというよりも、子供たちの思いや願いを大事にして、それを実現していくということに力点が置かれます。「もっときれいな花を咲かせたい」ということで栽培活動に取り組むとか、「おもちゃがもっとよく走るように工夫、改善したい」ということで、おもちゃ作りに没頭するなどということが大事なのです。ただそのときに、体験と言葉（表現）が行きつ戻りつするというイメージをもつことが大切です。

生活科も総合学習も体験がベースになるのですが、総合学習は先に説明したように4つのプロセスを踏むことで学びが深まっていきます。それに対し生活科は、体験そのものが重視されるのですが、その体験で得たものを言語化することによって、より確かな認識に至るということが重要なポイントなのです。」

1) みんなの教育技術 教師の悩みにピンポイント・アドバイス 田村学教授の「快答乱麻！」2023-10-19

<https://kyoiku.sho.jp/268655/>

（参照 2025-1-22）

新学習指導要領解説より

《生活を豊かにしていくとは？》

生活科の学びを実生活に活かし、よりよい生活を創造していくことである。それは、実生活において、まだできないことやしたことがないことに自ら取り組み、自分でできることが増えたり活動の範囲が広がったりして自分自身が成長することでもある。ここでいう**豊か**とは、自分の成長とともに周囲との関わりやその多様性が増すことであり、一つ一つの関わりが深まっていくことである。そして、自分自身や身近な人々、社会及び自然が一層大切な存在になって、日々の生活が楽しく充実したり、夢や希望が膨らんだりすることである。

IV. 研究方法

1. 実践研究の方法

各市町村、各会員の主体的な研究実践に重点を置き、自ら検証すべき単元を検討し、実践を深めるものとする。したがって、研究指定単元は設けない。石教研第2次研究協議会には、各市町村の実践報告という形で授業実践をレポートにまとめ、持ち寄ることとする。

2. 中心サークルの設定

共同研究の中核として、中心サークルを設定する。中心サークルは、石教研第二次研究協議会の授業公開に重点を置いた取り組みを行う。中心サークルの設定は、各市町村の輪番制を原則（江別→恵庭→石狩→千歳→北広島）とするが、会員数の実情に応じて決定する。2025年度の中心サークルは恵庭となる。

3. 石教研第二次研究協議会の運営

- (1) 公開授業を行い、実践検証をする。
- (2) 『公開授業についての討議』と『各市町村の実践交流』『実技講習会』を行う。
- (3) 討議の柱は、合同研修会（司会者・記録者・授業者・推進委員・役員）において決定する。

4. 部会情報の発行

部会連絡・各種研究会の報告等を掲載し、会員とのパイプ役として情報活動の充実に努める。

5. 理論研修と実技研修

研究主題に合わせた内容の理論研修と実技研修を交互に開催する。原則として理論研修は2年次研究の1年目に、実技研修は2年目に行う。(実情に合わせて役員研修会で決定する)令和7年度は、理論研修を開催。

6. 推進委員研修会

連絡調整をもとに、市町村の研究推進に積極的な役割を果たす。

7. 教育課程委員研修会

- 次期改訂に向けての情報収集と教育課程展開編の内容について検討する。
- 各市町村の実践を参考にして、『実践資料集』を作成し、部会員に配布する。

V. 研究体制

1. 各市町村の研究体制の確立

- (1) 各市町村部会は、研究課題究明に迫る組織的実践研究の場である。研究計画を確かめ合い、成果及び問題点を明らかにして、石教研第二次研究協議会で全員が実践をもとに交流できるようにする。
- (2) 各市町村の研究組織については、市町村ごとに事務局（部長・副部長・推進委員など）を置き、研究・運営を推進する。なお、当別・新篠津は、人数の関係上、他市町村との連携を図り、研究を進めていく。

2. 石狩管内の研究体制の確立

- (1) 役員研修会は、生活科部会の研究や日常の部会運営・各研究協議会・各種研修会などの業務を中心に、部会研究・運営を推進する。
- (2) 各役員を次の通りとする。
○部長 ○副部長 ○事務局長 ○事務局次長 ○研究員 ○教育課程委員（2名）

VI. 年間計画

月	会議・その他	内容
4	・石教研第一次研究協議会 ・役員研修会 ・推進委員研修会	・役員の紹介 ・研究計画提案
5	・役員研修会 ・推進委員研修会	・研究課題、主題、研究内容、研究方法の決定 ・第二次研究協議会原案作成・検討 ・市町村研究計画の交流 ・理論研修会内容打ち合わせ
7	・部会報発行① ・理論研修会	・理論研修会の内容について
8	・役員研修会 ・推進委員研修会	・石教研第二次研究協議会の運営計画の検討 ・理論研修会の反省
9	・役員研修会 ・合同研修会	・研究協議会の内容についての打ち合わせ ・実践資料集の計画 ・研究集録の作成
10	・石教研第二次研究協議会 ・部会報発行②	・石教研第二次研究協議会運営計画の確認 ・公開授業、実践交流
11	・役員研修会	・第二次研究協議会の反省 ・『石狩の教育』の執筆（分科会のまとめ）
12	・役員研修会	・次年度研究計画の検討 ・今年度の研究実践のまとめ
1	・役員研修会 ・推進委員研修会	・第二次研究協議会の反省、今年度の研究の反省 ・次年度研究計画案の提示 ・実践資料集の作成

（文責 小松 太一）